

大麦栽培管理情報（第1号）

令和2年8月28日
アルプス農協管内農業技術者協議会

高品質麦の安定生産には、発芽・苗立ちを良くし、初期生育を確保することが重要です。

スタート
が大事！



①排水対策、②土壌改良、③適正播種及び④播種後の適正管理により、高品質なアルプス大麦の安定生産につなげましょう。

① 排水対策

大麦は生育期間を通して湿害に弱いため、排水対策の徹底が安定生産につながります。

①稲刈後速やかに額縁排水溝を設置して水吐尻につなぎ、圃場が早く乾くようにしましょう(図1)。

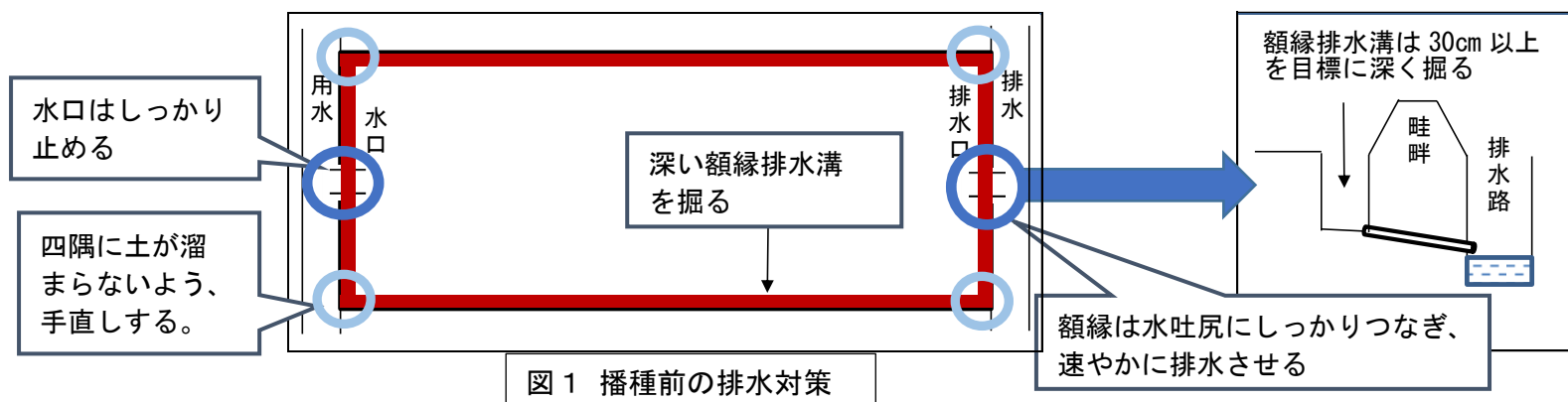


図1 播種前の排水対策

②播種後は基幹排水溝20cm(畝高20cm)を設置し、確実に額縁排水溝とつなげましょう(図2, 3)。

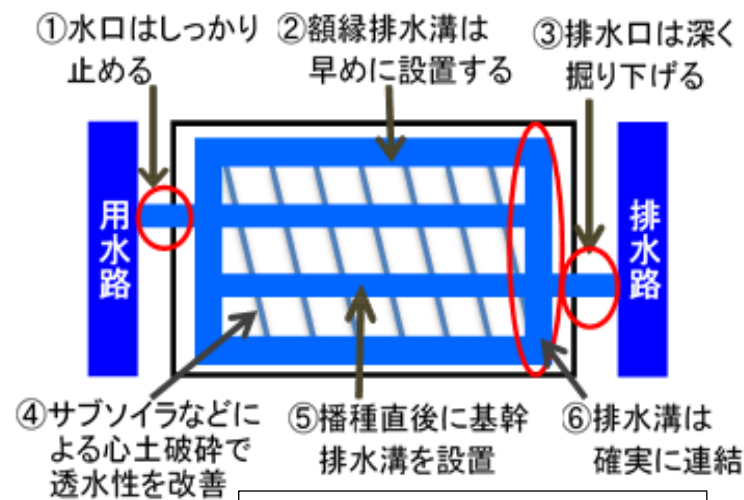


図2 播種前後の確実な排水対策

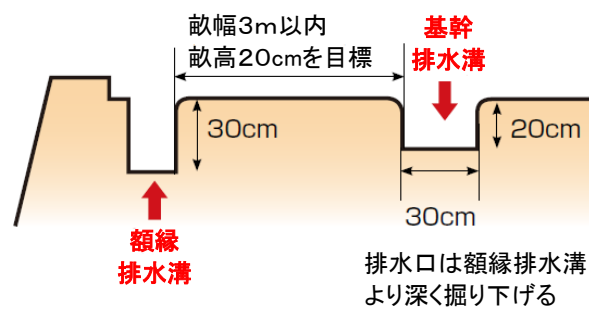


図3 播種後の圃場断面

排水の良いほ場では、出芽・苗立ちが安定して揃いも良く、除草剤の効果も高くなります！



② 土壌改良

大麦は、酸性土壌では生育不良となるため、pH6.0以上を目標に、確実にアルカリ資材を施用しましょう。また、積極的に堆肥等有機物を施用しましょう(表1)。

表1 土壌改良資材

資材名	時期	10a当たり使用量
粒状貝化石	耕起前	150~200kg
発酵けいふん		沖積土壌 150kg 洪積土壌 100kg

③ 適正播種



大麦の播種は、適期の 10月上旬を基本に、9月6半旬から10月中旬までに完了するよう、計画的に行いましょう。

(1) 種子消毒

種子更新を徹底するとともに、病害の発生を防止するため、必ず種子消毒を実施しましょう(表2)。

表2 種子消毒

消毒方法	処理方法
薬剤処理	乾燥種子10kg当たり ベンレートTコート50gを均一に紛衣
循環式催芽器による温湯浸法	45°Cの温湯に入れ、2時間半浸漬 (浸漬時間厳守)

(2) 播種作業

- ・ **播種前日まで耕起しない。**
- ・ 播種は、土の乾きを確認してから実施するとともに、**耕起～施肥～播種・作溝・除草剤散布までの一連の作業を1日で行いましょう。**

耕起から播種・除草剤散布までの一連の作業を同じ日に行うのは、基本中の基本です。

- ・ 畦幅は3m以内とし、幅が30cm、深さが20cm以上のしっかりした溝を設置するとともに、排水口に**確実に連結**しましょう。
- ・ ドリル播きは、**深さ3cm程度を目安に播種**しましょう。播き始めに播種深度が3cm程度になっているか確認してください。
- ・ 播種時期や方法に応じた、適正な播種量を厳守してください(表3)。
- ・ 基肥施用は基準量を目安とし、地力に応じて調整しましょう(表4)。

表3 播種時期・方法別播種量

播種時期	目標苗立数 (m ² 当たり)	播種量の見当 (10a当たり)	
		ドリル播	表面散播
9/26～30	140本	6.0kg	6.5kg
10月上旬	150本	6.5kg	7.0kg
(10月中旬)	(200本)	(8.5kg)	(9.0kg)

表4 基肥施用の見当

施用体系	肥料名	10a当たり施用量	備考
一発	LP大麦48号	45kg	原則、追肥は不要
分施	ハイマックス燐加安444	40kg	

④ 播種後の適正管理

(1) 雑草対策

- ・ 播種後速やかに除草剤を散布し、肥料成分が雑草に奪われるのを防ぎましょう。
- ・ **※ただし、表面散播した圃場では使用しない!**
- ・ 圃場条件に応じた除草体系を選んで実施してください(表5)。



<使用有>



<使用無>

写真 除草剤使用の有無による雑草発生状況

表5 圃場条件別除草剤例

No.	圃場条件等	除草剤名	適用雑草	使用時期	10a当たり使用量	使用方法
I	一般的な防除	ボクサー	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～雑草発生始期)	400～500mL (希釈水量70～100L)	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布
II	雑草が少ない圃場	トレファノサイド乳剤	一年生雑草 (ツクサ、カヤツリガサ、キク、アブラナ科を除く)	播種後出芽前 (雑草発生前)	200～300mL (希釈水量100L)	全面土壌散布
		トレファノサイド粒剤2.5		生育期 (雑草発生前:但し、収穫45日前まで)		
III	カラスノエンドウが多い圃場※	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80mL (希釈水量100L)	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布
		リベレーターG		播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)		

※IIIの場合、「アクチノール乳剤」(播種後30～45日頃に茎葉散布)との体系防除とする。

除草剤使用上の注意点

- ・ 除草効果を高めるため、播種直後に除草剤を散布しましょう。
- ・ 土壌が極端に乾いていると効果が劣るので土壌水分が適正な時に散布しましょう。
- ・ 散布直後に大雨にあうと薬害のおそれがあるので、天候を見極めて散布しましょう。
- ・ 種子が露出していると薬害のおそれがあるので、碎土率を高めるとともに、播種深度3cm程度を目安に、確実に覆土するよう注意しましょう。

(2) 排水溝の連結点検

- ・ 播種作業後には排水溝の手直しを行い、湿害防止に努めましょう。

播種後排水溝の手直し中。
このひと手間が
高品質麦生産への近道!



次回の大麦栽培管理情報(排水対策、雑草防除等)は、10月下旬の発行です。